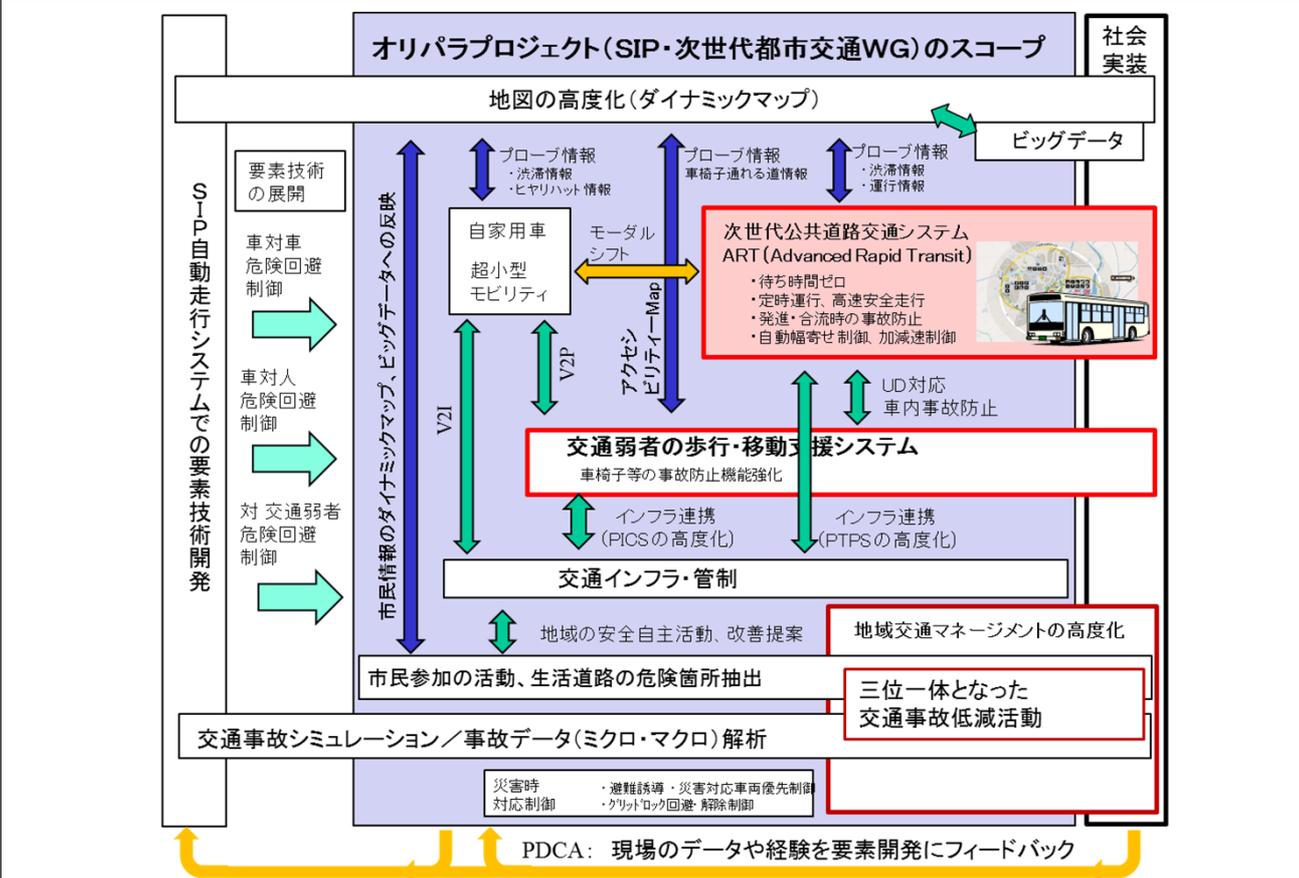


タイトル	東京の成長と高齢化社会を見据えた公共道路交通システム、交通弱者の歩行・移動支援システムの実用化
内容	<p>本PJは、内閣府が進めるSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)の1テーマである「自動走行システム」の一環として位置づける。SIP「自動走行システム」では、次世代都市交通への展開も含めた自動走行システムの実現により、車・人・インフラが三位一体となって交通事故や渋滞の低減、利便性の向上を目的とした研究開発を推進している。本PJでは、オリンピック・パラリンピック大会の成功をターゲットとし、その先も超高齢化社会、障害者の社会参加を見据えた次世代都市交通のあり方に関する政策課題解決に資する取組を加速化する。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆バス等の公共交通機関の高度な運行管理を実現する次世代公共道路交通システム(信号制御の高度化等により定時運行を確保する新たな公共車両優先システム等) ◆車いす利用者、高齢者など交通弱者の歩行・移動支援システム(交通インフラから携帯端末への情報提供による歩行者誘導システム、自動走行技術を活用しバリアフリールートを選択する車いす等) ◆道路・鉄道・水運等、複数の交通機関を連携させたマルチモーダルな推進等による地域交通マネジメントの高度化(特定交通機関への集中を回避し、交通機関全体の輸送力を最適化) <p>などについて、SIP・自動走行システムで研究開発を進める要素技術(車車間・路車間・歩車間通信によるITS先読み情報の活用、地図情報の高度化、センシング能力の高度化、HMI(Human Machine Interface)等)の活用により、東京ベイゾーン等においてオリンピック・パラリンピック関係者及び観客の安全・円滑な交通手段を確保するとともに、交通事故や渋滞の削減に資するシステムの実用化を目指す。</p>

■プロジェクトイメージ



◆次世代公共道路交通システム :ART (Advanced Rapid Transit)の定義
 バス車両と交通インフラを活かし、定時性、速達性、大量輸送能力、存在感、ユニバーサルデザイン、効率性、存在感において、従来のバス、BRTの機能を日本の都市交通ニーズに合わせて大幅に高度化したシステム。自動走行技術に大きく支援される。

◆自動走行技術との関係(例)

- ・専用駅での正着機能(ホームと車両間のギャップ調整)→ユニバーサルデザイン。停車時間短縮ならば定時性と速達性と輸送力の向上
- ・駅停車時の加減速調整→ユニバーサルデザイン(安全性)
- ・専用走行路平面交差点の効率的信号制御→定時性と速達性の向上
- ・自動車専用道路走行での車間調整→輸送力の向上
- ・専用走行路での隊列走行(追従車両無人運転)→効率性と輸送力の向上
- ・専用走行路駅での追越し管理→速達性向上とユニバーサルデザイン